



おじいちゃんの田んぼ

板倉町立西小学校 2年

春 山 蓮

「ダダダーッ。」

おじいちゃんが、田うえのじゅんびをしている音で、目がさめました。

そとに出ると、田んぼには水があり、ゆらゆらとおよぐぼくのこいのぼりが、きれいにうつっていました。

「おじいちゃん、おはよう。」

とこえをかけると、

「早くしたくして、手つだってくれー。」

とこっちを見て大きく手をふっています。

ぼくはいそいで、ごはんをたべて田んぼにはしっていきました。ぼくのかかりは、きかいの入れない田んぼのはじめに、いねを手でうえるかかりです。

ふかくうえると、水の中でいねがねてしまうし、あさすぎても水にういてしまうので、はじめてうえた時は、とても時間がかかってしまいましたが、だんだんじょうずになってきてよろよろとまがっていたいねのれつも、まっすぐにうえられるようになりました。

おじいちゃんからも

「じょうずになったなあ。れんは田うえの天さいだなあ。」

とほめられたので、田うえがもっとたのしくなりました。

田んぼのはん分を、みどり色のいねが風でフサフサとゆれています。ぼくのおなかも、ググーとなりました。ちょうどその時、

「ごはんだよー。」

とおかあさんのこえがして、見るとテーブルの上に、大きなおにぎりがたくさんおいてありました。

おかあさんは、田うえといねかりの時、いつもより大きいおにぎりにしてくれます。たくさんたべるとお米が大きくなって、いっぱいとれるんだと教えてくれました。

らい月には、いねかりをします。とつてもたのしみです。